

性とセクシャリティの
とりどり
に寄せて
にじいろBiwako

4. 『居場所って?』

NPO法人にじいろBiwako 理事 石原

たかゆき
昂侑



皆様こんにちは。代表理事の橋本さんからバトンを受けました。石原と申します。普段は「特定非営利活動法人あそと」という団体に障害のある人や子ども・若者の居場所作りに取り組んでいます。『居場所って?』とのテーマを頂きましたので、今回は「サードプレイス」について考えてみたいと思います。

サードプレイスとは社会学者のレイ・オルデンバーグが提唱した概念で、ファーストプレイス(自宅等の生活の場)やセカンドプレイス(職場等の多くの時間を過ごす場所)とは隔離された、心地のよい第3の居場所を指します。サードプレイスの例としては、カフェ、パブ、居酒屋、銭湯などが挙げられます。皆さんは自分にとってのサードプレイスが頭に浮かびますか？

サードプレイスでは、気軽な交流をとおして息抜きやリフレッシュが行われ、貯まったガスを抜き、また日々の生活に戻っていきます。

しかし、自身のマイノリティ性を感じている人にとっては、サードプレイスになりうる場所へのアクセスを躊躇してしまうこともあるのではないのでしょうか。サードプレイスは多種多様なので、ある人にとっては居心地のいい場所でも、別の人にとっては居心地の悪い場所となることも。特にマイノリティ性を感じている人にとっては、サードプレイスの持つ、制限なく誰でもアクセスできるという性質を、脅威に感じることもあります。

ここで必要になってくるのは不特定多数に開かれた場所とはまた別の、『不特定少数に向けられた場所』です。「にじびわべーす」のように、ある程度、入口の枠組みを作ることにはアクセスのしやすさにつながると考えています。

「にじびわ」のロゴには、トビラを開くという思いが込められています。これからも開けやすいトビラを作って行きたいと思います。

リフレッシュできる「サードプレイス」

にじいろBiwako
NPO法人



にじいろ
Biwako